

## 投稿にあたっての注意事項

森林利用学会誌に投稿いただきありがとうございます。編集部では、執筆要領を分かりやすく、また編集作業を円滑に行うため、統一したい用語集および投稿原稿例を作成しました。

執筆要領を参照していただくのはもちろんのことですが、本表でも投稿原稿を再度確認してください。

### ☆☆ 統一したい用語 ☆☆

言 葉	書 き 方	言 葉	書 き 方	言 葉	書 き 方
ア		較べる	比べる	共	とも
～した後	～したあと	凹む	くぼむ	～する時	～するとき
予め	あらかじめ	混み合う	込み合う	ナ	_____
或, 有る	ある	此, 之	これ, この	～し無い	～しない
～当たり, 当り	～あたり	恐い	怖い	尚	なお
～と言う, と云う	～という	極	ごく	何故	なぜ
幾つ	いくつ	如く	ごとく	～する等	～するなど
何れも	いずれも	御指導	ご指導	何等, 何ら	なんら
一旦, 一たん	いったん	殊更	ことさら	成る, 為る	なる
到る	至る	事	こと	～し難い	～しにくい
未だに	いまだに	～毎	～ごと	ハ	_____
居る	いる	サ	_____	拡がる	広がる
行く	いく	遡って	さかのぼって	殆ど	ほとんど
所謂	いわゆる	更に	さらに	～する他	～するほか
伺う	うかがう	暫く	しばらく	亡びる	滅びる
巧い	うまい	繁る	茂る	マ	_____
画く	描く	随分	ずいぶん	正しく	まさしく
於いて, 於て	おいて	既に	すでに	亦是, 又は, 又は	または
被う	覆う	即ち	すなわち	迄	まで
概ね	おおむね	全て, 総て	すべて	～して見る	～してみる
措ける, 於る	おける	つつ	ずつ	酬いる	報いる
行なう	行う	～に過ぎない	～にすぎない	寧ろ	むしろ
恐らく	おそらく	棄てる	捨てる	若し	もし
墜ちる	落ちる	其	それ, その	～を以って	～をもって
各々	おのおの	揃う	そろう	諸々	もろもろ
想う, 憶う	思う	タ	_____	ヤ	_____
カ	_____	唯, 只	ただ	～し易い	～しやすい
返って, 却って	かえって	但し	ただし	止むを得ず	やむを得ず
関わる, 係わる	かかわる	～度	～たび	往く	行く
拘わる	かかわる	～の為に	～のために	ゆく	いく
掛ける(計算)	かける	貯える	蓄える	～して良い	～してよい
1ヶ, 箇, 個月	1か月	経つ, 発つ, 起つ	たつ	～様に	～ように
3ヶ, カ, 箇所	3か所	～出来る	～できる	因って, 依って	よって
作業ヶ所	作業箇所	所, 処	ところ	ワ	_____
且つ, 且	かつ	～の通り	～のとおり	解る, 判る	分かる, わかる
兼ねる	かねる	留まる	とどまる	～という訳	～というわけ
来た, 来る	きた, くる	停める	止める	僅かに	わずかに
～位	～くらい, ぐらい	取り止める	取りやめる		

○以下は文中で表記がゆれやすいものです。いずれかに統一してください。

及び／および、超える／越える、従って／したがって、次第に／しだいに、伴う／ともなう  
～の方／～のほう、程／ほど、分かる／わかる

その他の例)

- ・日付・時間 2004年／平成16年、15:00／午後3時／15時
- ・人 ～氏／～さん／～教授（敬称）、36才／36歳
- ・数値や単位 メートル／m、立方メートル／立米／m<sup>3</sup>、トン／t／ton、パーセント／%、ドル／\$  
1.23km／1,230m、2,000／2千
- ・送りがな 上げ荷集材／上荷集材、下刈機械／下刈り機械
- ・外来語
  - 長音 バックホウ／バックホー、フレイルモア／フレイルモア／フレールモア  
メーター／メータ、エネルギー／エネルギ
  - 拗音 ウィンカー／ウインカー、スウェーデン／スエーデン、ホイスティング／ホイスチング  
ヴァイオリン／バイオリン、セロファン／セロハン
  - イ、エの次の音 ダイヤモンド／ダイヤモンド、ヒアリング／ヒヤリング
  - その他 アメダス／AMeDAS（和英）、カルノー・サイクル／カルノーサイクル（中点位置）
- ・地名・機関名 ニューヨーク／New York（和英）、森林総合研究所／森林総研（略記）
- ・新字・旧字 攪／攪

○動物・植物等の名はカタカナにしてください。なお、半角カナは使用しないでください。

例) 檜→ヒノキ、もみじいちご→モミジイチゴ、犬→イヌ、猿→サル、雉→キジ、かぶと虫→カブトムシ

○記号等について

- ・ギリシャ文字、数学記号等はすべて使用できます。欄外に注釈をつけてください。
- ・アクセント記号付きの文字（àáâæèéêöç など）はすべて使用できます。欄外に注釈をつけてください。
- ・囲み文字（①②③・・・）はなるべく使用しないでください。
- ・ローマ数字（ⅠⅡⅢ・・・）は半角英字の I, V, X, i, v, x で置き換えてください。
- ・臍 ㊤ ㊦ ○ ● ☆ ▲ □ ■ → ミ、cc m<sup>2</sup> ㊦ などの記号は使わないでください。

○機関名の略し方の例

Graduate School	→	Grad. Sch.
Faculty of Agriculture	→	Fac. of Agric.
University	→	Univ.
Science	→	Sci.
Research	→	Res.
Institute	→	Inst.
Technology	→	Tech.
Center	→	Ctr.
Engineering	→	Eng.
Society	→	Soc.
Japan	→	Jpn.

○外来語の語尾の長音について（参考）

※ 学会としての基準はありません。編集部では指摘する場合がありますが、著者の判断が優先します。

- ・基本的には、-er, -or, -ar で終わる 3 音以上の語は長音「ー」を省きます。ただし、間にある「ー」、「ッ」、「ン」は一音として数えます。

例 1) tractor → トラクタ, harvester → ハーベスタ, computer → コンピュータ, operator → オペレータ

例 2) motor → モータ, laser → レーザ, sensor → センサ, nipper → ニッパ

- ・-er, -or, -ar で終わる 3 音以上の語であっても長音を省かない場合もあります。

例) muffler → マフラー

- ・地名・人名・機関名・会社名には適用されません。

例) Tailor → テイラー

- ・組み合わせられた語は、分解して判断します。

例) チェーンバー (chainbar) = チェーン (chain) + バー (bar)。「バー (bar)」は 2 音以下なので長音を省きません。

モーターカー (motor car) の場合、motor は単独だと「モータ」ですが、「モーターカー」で結構です。

同様に、レーザービーム (laser beam) も、laser は単独だと「レーザ」ですが、「レーザービーム」で結構です。

# ☆☆☆ 投稿原稿例 ☆☆☆

## 原稿のスタイル

A4 用紙を使用

総説	: 刷り上がり 12 ページまで
論文, 研究・技術資料	: 刷り上がり 8 ページまで
速報	: 刷り上がり 6 ページまで
記録	: 刷り上がり 6 ページまで

- ・英字と数値はすべて半角とする。
- ・半角文字を用いる単位 (m, kg 等) と数値の間には半角スペースを入れる。
- ・和文の原稿
  - 句読点は全角コンマ「, 」 全角まる「。 」を使用する。
  - 式中を除き, かっこ ( ) はすべて全角を使用する。
- ・英文の原稿
  - 句読点は半角コンマ「, 」 半角ピリオド「. 」を使用する。
  - かっこ ( ) はすべて半角を使用する。
  - 「, 」 「.」 「:」 「;」 などの後, および「( )」の前後 (引用文献の号を示す場合を除く) には, 半角スペースを入れる。

ページ数の計算方法

本文: 2 枚で刷り上がり 1 ページ  
 図表の分もありますので, 論文では本文を 25 字×50 行で 10~12 枚まで, 速報では 6~8 枚までに収めるようにしてください。

図: 大きさによる  
 表: 大きさによる  
 写真: 横置き 6 枚で 1 ページ

## 表紙

### ○ 論文 表紙の例 (和文)

論文 ← 原稿の種類を左上に書く

論文では表題にアスタリスクを付けない

林業労働者の身体特性と運動機能

Physical characteristics and movement function of forestry jworkers

林次郎\*・森太郎\*\*・松田里子\*

アスタリスクの数で所属別に分ける  
 アスタリスクは上ツキ

全角スペース

名前前は全角中点“・”で区切る

\* 東京大学大学院農学生命科学研究科 □ Grad. Sch. of Agric. and Life Sci., Univ. of Tokyo, Tokyo 113-8657

\*\* 森林総合研究所 □ For. and Forest Prod. Res. Inst., Tsukuba 305-8687

所属機関 (和)

所属機関 (英・略記)

郵便番号

半角スペース

半角コンマ + 半角スペース

所在都市名 (英)

この部分が印刷時に脚注となります

### ○ 論文 表紙の例 (英文)

ARTICLE

## Physical characteristics and movement function of forestry workers

林業労働者の身体特性と運動機能

Jiro Hayashi\*, Taro Mori\*\* and Satoko Matsuda\*

共著者の最後から 1 番目と 2 番目は“and”でつなぐ  
 それ以外はコンマ“,”で区切る

\* Grad. Sch. of Agric. and Life Sci., Univ. of Tokyo, Tokyo 113-8657 □ 東京大学大学院農学生命科学研究科

\*\* For. and Forest Prod. Res. Inst., Tsukuba 305-8687 □ 森林総合研究所

欧文の脚注は並び方に注意  
 所属の和名は最後につける

所属別に分ける

○ 速報, その他 表紙の例 (和文)

**速報**

← 原稿の種類を左上に書く

論文以外では表題にもアスタリスクを付ける (1個)

林業労働者の身体特性と運動機能\*

← 名前は全角中点”・”で区切る

林次郎\*\*・森太郎\*\*\*・松田里子\*\*

論文以外の場合, 脚注の最初 (アスタリスク 1 個) は表題英訳  
所属別の著者情報は 2 行目 (アスタリスク 2 個) 以降

共著者の最後から 1 番目と 2 番目は”and”でつなぐ  
それ以外はコンマ”,”で区切る

\* Physical characteristic and movement function of Forestry laborers

\*\* Jiro Hayashi and Satoko Matsuda □ 東京大学大学院農学生命科学研究科 □ Grad. Sch of Agric. and Life Sci., Univ. of Tokyo, Tokyo 113-8657

\*\*\* Taro Mori □ 森林総合研究所 □ For. and Forest Prod. Res. Inst., Tsukuba 305-8687

著者名 (英)

所属機関 (和)

所属機関 (英・略記)

郵便番号

↑ 所在都市名 (英)

○ 速報, その他 表紙の例 (英文)

RESEARCH AND TECHNICAL REPORT

Physical characteristics and movement function of forestry workers\*

Jiro Hayashi\*\*, Taro Mori\*\*\* and Satoko Matsuda\*\*

← 名前は全角中点”・”で区切る

↑ 共著者の最後から 1 番目と 2 番目は”and”でつなぐ  
それ以外はコンマ”,”で区切る

\* 林業労働者の身体的機能 ← 表題の和訳

\*\* 林次郎・松田里子 □ Grad. Sch. of Agric. and Life Sci., Univ. of Tokyo, Tokyo 113-8657 □ 東京大学大学院農学生命科学研究科

\*\*\* 森太郎 □ For. and Forest Prod. Res. Inst., Tsukuba 305-8687 □ 森林総合研究所

著者名 (和)

↑ 欧文の脚注は並び方に注意  
所属の和名は最後につける

要 旨

○ 要旨の例 (和文 500 字以内, 英文 250 語以内)

掲載号, ページ数等は未定なので”?” (半角) を使用

林次郎・森太郎・松田里子: 林業労働者の身体特性と運動機能. 森利誌??(?) : ??~??, ????. 現在, 林業労働者の高齢化が進み, ..... (500 字以内) .....

キーワード: 身体特性, 運動機能, 災害分析

← キーワードは 5 語以内

← 半角スペース

Jiro Hayashi, Taro Mori and Satoko Matsuda: Physical characteristics and movement function of forestry workers. J. Jpn. Eng. Soc. ??(?) : ??-??, ????. ..... (250 語以内) .....

**Keywords:** physical characteristic, movement function, analysis of occupational injuries

← キーワードは 5 語以内

要旨での注意!!

- ・要旨中では行を変えない (キーワードのみ別行)
- ・要旨中で図・表・文献・数式などを引用しない

## 本文のスタイル

- 英数字はすべて半角を用いる。特別な場合を除き半角カナは使用しない。
  - 半角文字を用いる単位 (m, kg 等) と数値の間には半角スペースを入れる。
- 和文中での句読点はすべて全角コンマ「,」および全角まる「。」を用いる。
- 和文中の ( ) はすべて全角を用いる。ただし、数式中では半角( )を用いる。
- 英文中では半角コンマ「,」および半角ピリオド「.」を用いる。
- 英文中の ( ) はすべて半角を用いる。
- 単位はすべて SI 単位系を用いる。ただし、必要であれば、他の単位系を ( ) 書きで併記できる。  
例：9.8 N (1.0 kgf), 206 kW (280 ps)

和文	A4 縦	横書き	25 字×50 行	余白：上下左 20 mm, 右 80 mm
英文	A4 縦	横書き	適宜×25 行	余白：上下左右 30 mm

### 本文の例

空白入れない

大見出しはセンタリング，ゴシック，改行

中見出しはゴシック，文章は改行

**2. 災害分析よりみた作業者の運動機能**

**2.1 造林作業の災害**

造林作業の災害は，1991 年度の国有林における災害 105 資料をもとに分析した。被害者の年齢構成は，35 歳未満 9 名，35～39 歳 3 名，40～44 歳 16 名・・・  
・・・敏捷性などがあげられる。

大見出しの前は 1 行あける

小見出しは行頭を全角 1 字あける  
文章は小見出しとのあいだに全角一字あけ，  
行をかえずに書きはじめる

**4. 林業作業に必要な運動機能**

**4.1 林業作業者の作業動態**

**4.1.1 下刈作業** 下刈作業の実験は，7～8 月の 2 か月間，作業現場 A および B において行った。分析箇所は，**図 5**に示すとおり頭部頂点，首，右肩，右肘，右手，**左**肩，左肘，左手，右腰，左腰，・・・

図表・写真の本文中の位置を欄外に示す

数式番号との混同を避けるため，引用文献は「(人名#####)」で表記する (#####は半角数字の年)。和文では全角文字の人名と半角文字の数字の年の間に空白は不要。すべて半角文字である英文の場合は，人名と年の間に半角スペースを入れる。

括弧の中に引用文献を列記する場合，同じ著者の複数の文献は年を“，”で区切りまとめて表記できる。異なる著者の引用文献の区切りには“；”を使う

全角「-」を使用する  
半角「-」や長音「-」は使用しない

運動機能を測定評価した研究もみられるようになったが (山田ら 2002, 2004; 山田・森 2004)，測定された運動機能が林業作業の中でどう生かされているのか検討した研究は・・・

英文での引用の例：  
Yamada *et al.* (2002) concluded this function・・・  
・・・mentioned the phenomenon (Yamada 2004; Yamada and Mori 2004).

月間，作業現場 A および B において行った。分析箇所は，**図 5, 6～8**に示すとおり頭部頂点，首，右肩，・・・

著者が 2 名の場合は「山田・森」，“Yamada and Mori”等とし，3 名以上の場合「山田ら」，“Yamada *et al.*”等とする

図表の番号は“，”で区切るなどして，まとめて表記できる

・・・ものは、以下のようになる。

$$M_x = \frac{M_B - M_A}{l} x + M_A \quad (1)$$

ここで、 $x$ : A 点からの距離 (m),  $M_x$ : 距離  $x$  における曲げモーメント (Nm),  $M_A$ : A 点における曲げモーメント (Nm), . . . . .

・ 値を代入し (1) 式からこれを求めた。 . . .

数式の前は全角で 1 文字あける

式を示すときは引用と混同を避けるため“( ) 式”と表す  
複数の式をまとめて”(1, 2) 式”, ”(1~5) 式”のような表記はできない  
 また、式の番号はイタリックにしないこと

数式は上下 1 行あける

数式の番号は全角の ( ) 付きで、右端から全角 1 文字あける

数式などで使用する変数は必ず初出時に定義し、単位を付ける。

## 引用文献

- ・引用はアルファベット順に並べる。
- ・著者が同じ場合は発行順に並べる。

学会誌等：著者名（発行年）タイトル、誌名、<sup>ビリオド</sup> 巻（号）<sup>コロン</sup>：ページ<sup>ビリオド</sup>、総ページ数または引用ページ範囲。総ページ数の最後には「pp」を付ける。

単行本：著者名（発行年）タイトル、<sup>ビリオド</sup> ページ<sup>カンマ</sup>、<sup>カンマ</sup> 出版社名、<sup>カンマ</sup> 出版社所在都市<sup>ビリオド</sup>。

図書中の 1 章や 1 論文を引用する場合：  
 著者名（発行年）表題（<sup>ビリオド</sup> 図書名、<sup>ビリオド</sup> 編者名、<sup>カンマ</sup> 総ページ数、<sup>カンマ</sup> 出版社名、<sup>カンマ</sup> 出版社所在都市）<sup>ビリオド</sup> ページ範囲<sup>ビリオド</sup>。  
「pp」を付ける

2 行目以降はぶら下がりに  
 ンテント 2 文字とする。

### 引用文献

林次郎・森太郎・松田里子（1989）林業労働者の身体特性と運動機能．日林論 100：821~824．

森太郎（1991）林業労働者の身体特性と運動機能（高齢者の労働能力．斉藤一編．204pp，労働科学研究所，神奈川）55～68．

斉藤一（1980）高齢者の労働能力．204pp，労働科学研究所，神奈川．

Yamaguchi, H., Suzuki, H. and Shibata, A. (1995) Influence of vehicle weight on a root of a cypress. Jpn. J. For. Env. 10(1): 31-39.

和文文献中の著者名は、「・」でつなぐ。英文等では「, (半角カンマ)」で、最後のみ「and」でつなぐ。

ページの範囲は和文文献は「～」、英文等は「- (半角ハイフン)」でつないで表記する。

引用文献中の欧語の著者名は、“姓, 名前の頭文字.”

ページの範囲は半角ハイフンを使用する。

2 行目以降はぶら下がりに  
 ンテント 2 文字とする。

### 英文の論文等での引用文献

Wang, J., LeDoux, C.B. and Li, Y. (2005) Simulating cut-to-length harvesting operations in Appalachian hardwoods. Int. J. For. Eng. 16(2): 11-27.

ファーストネームとミドルネームのアルファベットが並ぶとき、前者のピリオドと後者のアルファベットの間に半角スペースは不要

CD-ROM, DVD-ROM 等で発行・配布されているもの (ページ数がないものは省略)

学会誌等 : 著者名 (出版年) <sup>ビリオド</sup> タイトル. <sup>コロン</sup> 誌名 <sup>ビリオド</sup> 巻 (号) : <sup>ビリオド</sup> ページ. 媒体名.  
単行本等 : 著者名 (出版年) <sup>ビリオド</sup> タイトル. <sup>カンマ</sup> ページ, <sup>カンマ</sup> 出版社名, <sup>カンマ</sup> 出版社所在都市. <sup>ビリオド</sup> 媒体名. <sup>ビリオド</sup>

Web 等で公開されている pdf 文書等で, ページ数が記入されているもの

Web 出版雑誌 : 著者名 (出版年) <sup>ビリオド</sup> タイトル. <sup>コロン</sup> 誌名 <sup>ビリオド</sup> 巻 (号) : <sup>カンマ</sup> ページ. <sup>ビリオド</sup> オンライン, (所在 URL). <sup>ビリオド</sup> 参照年月日.  
Web 出版書籍 : 著者名 (出版年) <sup>ビリオド</sup> タイトル. <sup>カンマ</sup> ページ, <sup>カンマ</sup> 出版社名, <sup>カンマ</sup> 出版社所在都市. <sup>ビリオド</sup> オンライン, (所在 URL). <sup>カンマ</sup> 参照年月日. <sup>ビリオド</sup>

Web 等で公開されているもの

Web ページ : 著者名 (公開年) <sup>ビリオド</sup> Web ページの題名. <sup>カンマ</sup> オンライン, (所在 URL). <sup>ビリオド</sup> 参照年月日. <sup>ビリオド</sup>

※ 電子雑誌等を引用する場合, 著者は引用元の文献のファイルを保存しておくか, または印刷して保管しておくこと! アクセスができないなどの問題には, 学会では責任を負えませんので, 必ず保存または保管してください。

例 )

林次郎・森太郎・松田里子 (1989) 林業労働者の身体特性と運動機能. 日林論 100 : 821 ~ 824. **CD-ROM**.

← CD-ROM, DVD-ROM 等, 媒体名を記載。ページ数がない場合は, ページ数を省略。

Nitami, T., Suk, S., Kataoka, A. and Mitsuyama, T. (2011) Tower yarder operation in Japan and the performance analysis by GPS-based system. In: Proc. of the 44th International Symposium on Forestry Mechanisation: "Pushing the Boundaries with Research and Innovation in Forest Engineering", Kanzian, C., Rottensteiner, C., Holzleitner, F. and Pertlik, E. (eds.): **CD-ROM**.

林野庁 (2002) 緊急間伐総合対策. **オンライン**, (<http://www.rinya.maff.go.jp/seisaku/sesakusyokai/kanbatu/kanbatuop.htm>). 2004年06月14日参照.

← オンライン文書の場合 (web, ftp など) オンラインまたは Online と記入する

← URL は ( ) で囲む

← 参照年月日を必ず記載する

Yamada, Y., Toyokawa, K. and Imatomi, Y. (1995) The physical lumber burden of forestry workers (1) In the manual planting work. J. Jpn. For. Eng. Soc. 10: 31-39. **Online**, (<http://jfes.ac.affrc.go.jp/xx/1995.pdf>). **Accessed June 14, 2004.**

## 引用文献の並び順

例)

井上源基(1994)高性能林業機械作業システム研究の現状と課題. 農林水産技術研究ジャーナル 17(3): 6~12.

井上源基(1998)機械化とコストー林業機械の償却と機械作業のコスト分析(林業技術ハンドブック. 須崎幸男ら. 1969pp, 全国林業改良普及協会, 東京) 1319~1343.

中澤昌彦・松本武・岡勝・田中良明・吉田智佳史(2009)中山間地域における路網密度補正係数の特性: 境界面積の規模が係数に与える影響. 森利誌 24(3-4): 97~106.

中澤昌彦・岡勝・田中良明・吉田智佳史・近藤耕次(2007a)中山間地域における道路網の迂回に関する一検討. 森利誌 22(4): 261~264.

中澤昌彦・岡勝・田中良明・吉田智佳史・近藤耕次(2008)中山間地域における道路網の迂回に関する一検討. 森利誌 22(4): 261~264.

中澤昌彦・鈴木秀典・岡勝・田中良明・吉田智佳史・近藤耕次・松本武(2007b)ネットワーク分析を用いた山村地域における道路網の発達過程に関する研究. 森利誌 22(1): 15~20.

中澤昌彦・鈴木秀典・岡勝・田中良明・吉田智佳史・近藤耕次・松本武(2007c)ネットワーク分析による流域内の道路網の階層的・時系列的特性. 森利誌 22(3): 121~132.

Nakazawa, M., Yoshida, C., Sasaki, T., Taki, S., Uemura, T. and Ito, T. (2019) Productivity of logging large diameter logs and long logs during final cutting in a mountain forest in Japan. *Int. J. For. Eng.* 30(3): 203-209.

単著の場合は必ず発行年の順番に並ぶ

2名以上の著者の場合は、著者のファミリーネームのアルファベット順が優先され(著者の数によらない)、全く同じ著者の組み合わせにおいては発行年(同じ年の場合は発行年月日)の順になる。

左の、中澤ら(2007a, b, c, 2008, 2009)および Nakazawa *et al.* (2019)の例では、まず第2著者のファミリーネームすなわち Matsumoto, Oka, Suzuki, Yoshida のアルファベット順(これらの例では第3著者以降は同じだが異なる場合は第3著者以降のファミリーネームのアルファベット順となる)、次に発行年の順となっている。

著者数が3名以上の場合、本文中での文献の表記は「中澤ら」あるいは「Nakazawa *et al.*」となるので、第3著者以降の組み合わせに関わらず、同じ発行年のものは「a」, 「b」, 等を付して区別する。



## 図表について

図・表・写真はすべてモノクロで印刷し、提出すること。  
(カラー印刷を希望する場合は、左上に「カラー」と記入する)

1ページにつき1つの図・表・写真とする。

図・表・写真には、右肩または左肩に、著者名と通し番号を記入する。

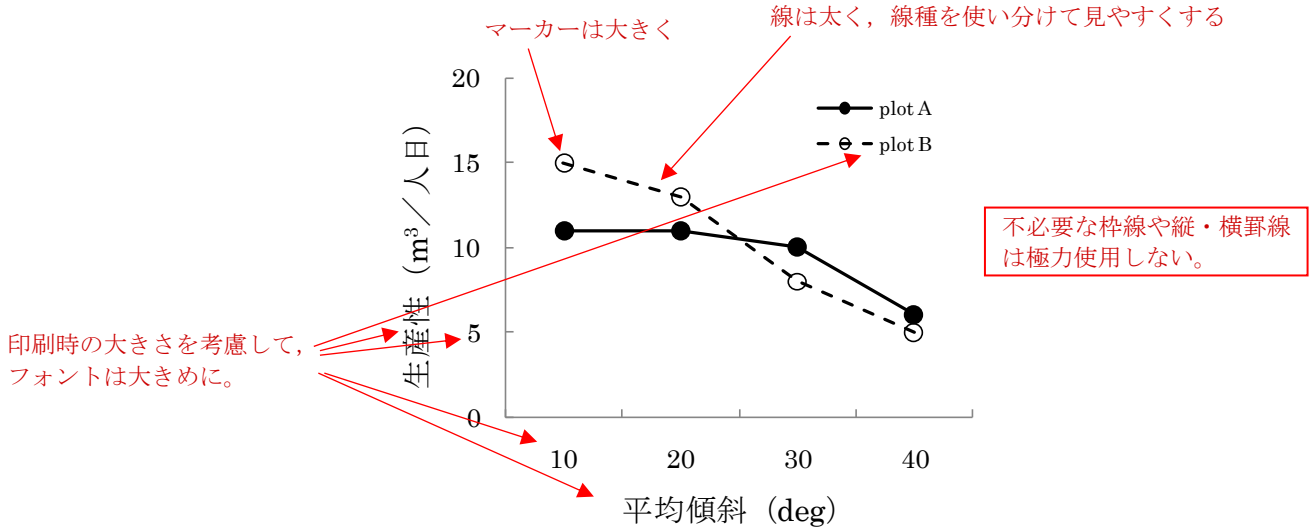
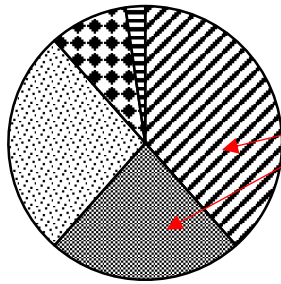


図-1 □ 生産性と平均傾斜の関係

ピリオドなし、全角1字あけ



円グラフや棒グラフなどは、モノクロでも見分けられるようにパターン(模様)で塗り分ける

表題は中央に

表-1 試作機械の諸元

質量 (kg)	2.7
排気量 (cm³)	25.4

表の文字はゴシックにしない。  
本文と同じフォントを使用する。

表-1 試作機械の諸元

質量 (kg)	2.7
排気量 (cm³)	25.4

表では縦罫線を使用しないこと  
また、 unnecessary 横罫線は使わない

欧語の論文の図表番号例

図 : Figure□1 または Fig.□1 ※

表 : Table□1

※ どちらかに統一すること。□は半角スペース。